

皮膚科後期研修プログラム

I. 研修目的

医師としての全般的な基本能力の修練を基盤に、皮膚疾患の専門的知識・診断・治療技術を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。

特に皮膚科疾患には難治性のものが多く、治療に努めても目立った改善が得られない場合も少なくない。このような場合、いかに患者の満足を得られるかは、ひとえに患者からの信頼にかかっている。患者から信頼される、皮膚科専門医を目指してもらう。

II. 到達目標

1. 皮膚科学総論

- 1) 表皮から皮下脂肪織まで、皮膚の組織学的要素や構造を理解し、生理的な役割を理解する。
- 2) 皮膚病態の細胞生物学的・分子生物学的な理解を深める。
- 3) 皮膚免疫アレルギー学の理解を深める。
- 4) 光線生物学的な理解を深める。
- 5) 微生物学的な理解を深める。

2. 皮膚科診断学／検査

- 1) 現症の把握、問診での的確な聴取を修得する。
- 2) 発疹の種類、粘膜疹の種類などの理解を深める。
- 3) 皮膚病理学的な理解を深める。
- 4) 超音波検査、苛性カリ標本検査、皮膚免疫検査、光線照射検査、病理検査、ウイルス性細胞診など、医師が自ら行う諸検査を習熟する。
- 5) 血液検査、梅毒検査、分子生物学的検査などに対する理解を深める。
- 6) 臨床写真を的確に撮す。

3. 治療法

- 1) 外用療法について習熟する。
- 2) 抗菌薬の全身療法について習熟する。
- 3) 副腎皮質ホルモンについての全身療法を習熟する。

- 4) 光線療法について習熟する。
- 5) 簡単な皮膚外科について習熟する。
- 6) 局所皮弁術、植皮術の適応、手技について理解する。

4. 皮膚科学各論

- 1) 湿疹・皮膚炎群の病態を理解し、外用薬の的確な使用法を習熟する。
- 2) 蕁麻疹の病態を理解し、抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬の使用法を習熟する。
- 3) 薬疹の多様性について理解し、重症薬疹に遭遇した際の対処法について学ぶ。
- 4) 血管炎の種々の相を理解し、治療法について習熟する。
- 5) 角化症や炎症性角化症の多様性とそれぞれの病態を理解し、的確な治療法を選択する。
- 6) 自己免疫水疱症の発症メカニズムを理解し、患者に説明できるようになる。適切なステロイド薬の投与量や、補助療法を習熟する。
- 7) 遺伝性水疱症の原因遺伝子と構成要素について理解し、遺伝相談を受けられるように努力する。
- 8) 膠原病の種々相を理解し、リウマチ・膠原病内科等とタイアップして診療に当たれるように努力する。
- 9) 全身性アミロイド症やポルフィリン症をはじめとする代謝異常症についての理解を深める。
- 10) 熱傷の初期治療について習熟する。
- 11) 皮膚潰瘍の治療について習熟する。
- 12) 種々の皮膚良性腫瘍、悪性腫瘍について理解し、診断を下せるようになるとともに、指導医の指導のもと手術手技を習熟する。
- 13) 陥入爪フェノール法、アテロームくり抜き術、皮膚良性腫瘍の単純摘出術などの手技についても習熟する。
- 14) ウイルス感染症についての理解を深め、的確な抗ウイルス薬の使用法を習熟する。
- 15) 性感染症についての理解を深める。
- 16) 細菌感染症についての理解と抗菌薬の使用について習熟する。
- 17) 真菌感染症の多様性を理解し、外用薬／内服薬の使い方を習熟する。
- 18) 疥癬、マダニ刺症などの寄生虫症について理解する。
- 19) 糖尿病に伴う皮膚病変など、内科的疾患に伴い皮膚病変について理解を深める。